



平成25年1月21日  
卓話 『人生は夢』  
熊本県知事  
蒲島 郁夫 様

私の両親は満州の引揚者で、子ども6人と共に引き揚げた先は私の祖母の家でした。祖母が一人で狭い田んぼを耕していたところに8人が押し掛けたので大食糧難です。そういう中でまた3人も産まれ、その最初の子が私です。高校3年生まで米のご飯を食べたことがない貧乏生活。高校までは勉強もせず、卒業時の成績が230番中の200番と、本当に水面下から始まった人生です。高卒後地元の農協に勤めたのですが、自分には向いてないと思い、違った生き方を目指しました。私には子供の頃から夢があって、1つは阿蘇の麓で牛を飼うこと、2番目は小説家になること、3番目が、小説の中の英雄のような素晴らしい政治家になることでした。実現性の高い夢は牛を飼うことでしたから、それを実現しようと決心し、当時あった農業青年を2年間アメリカに研修生として送る制度に応募してアメリカに渡りました。

研修生は奴隷みたいな仕事で農業に絶望しかけたのですが、その中でよかったのはネブラスカ大学で3ヶ月間の研修を受けたことです。そのとき私は生まれて初めて勉強しました。そして思ったのは農業と比べてなんと学問は楽だろうということです。勉強するだけでご飯が食べられる。そこで私は大学の担当者に来年の農業研修生のプログラムで通訳に雇って欲しいと頼んでOKをもらい、24歳のとき大学の入試を受けました。入試は英語と数学の2科目だけ。でも英語



はアメリカ人が受けるものなので、すごく難しい。不合格の通知が来て絶望したんですけど、落ち込んだ私を見

て先生が、蒲島にはチャンスを与えるべきだと入試担当者に交渉してくれたんです。アメリカは弾力のある国です。じゃ1学期だけ様子を見ようということになりました。私は必死で勉強しました。1学期が済んで全優をとることができました。そうすると特別扱いしてくれるんですね。たくさんの奨学金、授業料は免除、そして1年生のときから指導教授がついて研究ができる、そういう特待生になったんです。

卒業の時期になって昔の3つの夢の一つ、政治を勉強したいと考え、畑違いではありましたがハーバード大学の政治学の博士コースに入りました。帰国後、筑波大学と東大で28年間幸せな人生を送ったんですけど、60歳のときにまた転機が訪れました。いろんな政党から熊本県の知事選に出ないかと勧められたのです。周囲は全員反対。一番の反対は私の弟子たちです。私の専門は投票行動の理論で、私が選挙に負けたらその理論を受け継ぐ弟子たちも困るわけですね。選挙は激戦でしたけれども私が圧勝し、61歳の時に熊本県知事になりました。

私の人生は大逆境の中にありました。でも大事なことは逆境の中にこそ夢があると思いつけたことです。政治家になって良かったのは県民のために生きる喜びがとても大きいことです。自分のこと以上のことに貢献できたら無上の喜びです。

ありがとうございました。

